

第1号議案

令和元年度全技連マイスター会事業計画

1. 基本方針

いよいよ新たなる年度「令和元年」が始まりました。そして、我が国も、漸く主要国に続き、情報通信技術の第5世代（5G）化・人工知能（AI）の本格活用等に本腰を入れ、いわゆる第4次産業革命に積極的に立ち向かおうとしています。

第4次産業革命の時代においては、良きにつけ悪きにつけ、私たちの生活・文化環境は大きく、しかも短時間で変化します。この激しい時代変化の潮流の中で漫然と構えていれば、私たちが先人から引き継ぎ、改善・工夫を重ねてきた貴重な“ものづくり”の伝統を、後代に引き継ぐことが大変難しくなると言わざるを得ません。

私たち全技連マイスター会はものづくりの分野で、我が国の伝統と革新を担い、後世に引き継ぐ責務を負うものです。この責務を十全に果たし、令和の意味する「美しく調和のとれた」ものづくり社会を創り、後世に引き継いでいくためには、その活動の基盤である全技連マイスター会の組織を強固にする必要があります。

このため、全技連マイスター会は、今後とも以下の活動に力を注ぎます。

（1）変化に対応する産学官政の連携

ときどきの変化に適切に適応しなければ、いずれの文化も生き残ることはできない。

しかし、変化に適応し、先人から引き継いだ文化を後世に継承するためには、極めて大きなエネルギーを必要とする。文化の歴史・将来像を見極め、新たな価値を創造する研究力。それに必要な十分かつ継続的な財力。制度的に保証する政策実現能力。そして、その成果を世界基準として発信する政治的影響力。これらの力が有機的・効果的に結合することが不可欠である。

特に我々“ものづくり”の職人の、変化への適応力は極めて小さい。それゆえ、我々が受け継いだ技能に付加価値を付け、後世に引き継ぐため、産学官政の全ての力を我々の味方に引き入れるべく、努力をする。

（2）ものづくりを目指す組織との連携の強化

全技連マイスター会は、全国技能士会連合会が認定する全技連マイスターにより自主的に組織されている団体であることは、今更言うまでもない。

すなわち、全国技能士会連合会は全技連マイスター会と同根・不可分の組織であり、全技連マイスター会発足以来、足並みをそろえて、活動をしてきた。

同一目標を持つものが、大きく、強固に連携することこそ、力強く、周囲に対する大きな影響力を持つ組織を作る要諦ということは明らかである。

いろいろな事情で支部を設置できない県や、支部は設置されてはいるものの支部活動に活力が見られないところもある。これらの地域の中には、その原因が各県技能士会連合会との連携が必ずしも十分ではない事によるのではないかとと思われるところもある。

今後、各地域の全技連マイスター会支部・会員と各県技能士会連合会等との一層の連携の強化に向け、注力する。

2. 個別計画

前項の基本方針を踏まえつつ、今年度の個別方針として、次の6点を設けます。

(1) ブロック会・都道府県支部への助成事業の充実

平成27年7月の「全技連マイスター会事業費助成基準」制定以来、本事業への理解度・額決定の透明度が大きく改善されたところである。

これにより、平成26年度の申請団体が12団体であったところ、平成27年度は18団体、平成28年度は25団体、平成29年度は28団体、平成30年度は32団体と、年々増加傾向にある。これに対応するため、未納会費の納入促進等、歳入増加努力を行いながら、助成費枠の拡大に努めた。

ブロック会・都道府県支部への事業費助成は、各地域のマイスター会活動の活性化に大きく寄与しており、全技連マイスター会事業の中でも主要な位置を占めている。

地域活動の中では、広域的な事業活動及び予算方針の決定・次年度役員候補者の検討等のため、ブロック総会等の一層の充実が期待されている。

また、支部活動は、全技連マイスター会活動の根幹であり、支部設置の有無がその地域の全技連マイスターの認知度の違いに大きく関係する。このため、支部未設置県設置県において、早期の支部設置が待たれる。

これらの期待に応えるため、全技連マイスター会は「全技連マイスター会事業費助成基準」を改正し、ブロック会総会等及び各県支部設立準備総会等に対する助成額の増額を行い、各地域活動の活性化を支援していく。

(2) 全技連マイスター会ホームページの充実

全技連マイスター会のホームページは、平成28年6月の本格運用から、掲載記事の充実に努めてきた。とりわけ、各地域の活動・会員の勲章叙勲・褒章受章・現代の名工選定情報等については、「掲示板」「地域活動」「会員紹介」等のコーナーで最新情報をアップすることに意を用いている。

これらの最新情報を掲載できるのも、各支部会長や会員の適時・適切な情報提供が有るからこそと言える。しかし、事務局への情報提供は、未だに皆無に等しい状態である。

全技連マイスター会会員の総意により開設されたホームページの充実のため、会員各位の積極的な協力を願う。

なお、全技連マイスター会事業費助成制度を活用し、埼玉県支部及び三重県支部が支部ホームページを開設している。是非ご覧することを願います。

○全技連マイスター会ホームページを、見て下さい。

ご自身のパソコン・スマートフォンの「検索欄」に <http://jp-meister.org/>

又は 「全技連マイスター会」と入力して下さい。

全技連マイスター会のホームページを見ることができます。

○各支部・ブロック会・単一職種団体の行事予定等の記事を送って下さい。

「地域活動」のページに掲載します。写真もお願い！

送り先：info@jp-meister.org

○会員の皆様の各種情報を、写真と併せて送ってください。

「会員紹介」のページに掲載します。

送り先：info@jp-meister.org

(3) 「ものづくり・匠の技の祭典」への積極参加

東京都は、28年度からの継続事業として、「我が国のものづくり産業を持続的に発展させるため、東京を起点として、日本各地と連携し、ものづくりとそれを支える職人技・匠の技の魅力を、若者をはじめ、国内外の多くの人々に発信し、実際に体験できるイベント」として、「ものづくり・匠の技の祭典」を開催している。

全技連マイスター会は、平成29年度 愛知県支部・福岡県支部が県代表として参加し、平成30年度は福島県支部・埼玉県支部・福井県支部及び愛知県支部の4支部が県代表として参加した。

さらに昨年度は全技連マイスター会(本部)も独自ブースを設置し、野菜・果物カービング(日本料理)、錬りきり細工(和菓子)、能面製作(木工)の3部門を出展し、好評を博した。

令和元年度の祭典は、オリンピック開催の前年度のため、開催場所が東京五反田「T O C 展示場」・開催日が7月25日(木)～27日(土)へと変更される。

今年度も各県支部が県代表として参加することが見込まれ、全技連マイスター会(本部)も昨年に引き続き出展する計画を進めている。

この事業の意義は、まさに全技連マイスター会の事業目的に合致するものであり、このような活動こそが、全国の技能士や全技連マイスターへの信頼を人々の間に定着させる有力な方法である。また、平成27年2月25日に行った全技連マイスター会専門委員会答申「10年後を見据えた10の提言“NEXT10”」の具体化でもある。

全技連マイスター会は2つの基本方針具体化の一方策としても、今後とも、関係団体と連携・協力しながら、この事業に参加・協力し、全技連マイスター会会員及び全国の技能士の活躍を多くの人々に認知をして頂く場として活用するものとする。

また、各都道府県に於いて「ものづくり・匠の技の祭典」と同様な取り組みをし、全

技連マイスター会の各支部等が係わる場合は、当該支部等の求めに応じ、全技連マイスター会として、支部への支援に努める。

(4) 全国技能士会連合会との事業連携等の検討

全国技能士会連合会との連携を一層強めることは、全技連マイスター会としての信用力・活動力を高めるためにも、個々の会員の活動力を高めるためにも、極めて有効である。

今後、全国技能士会連合会との更なる連携強化に向け、公共同事業など事業連携の促進や、全国技能士会連合会への入会など組織連携の推進について、これまでの両組織の活動経緯や全国状況等を見据えつつ、慎重に検討していく。

(5) 少数会員県等の活動の活性化への工夫

昨年度は、4月に全技連マイスター会沖縄県支部が、また5月に全技連マイスター会山形県支部が発足した。しかし、さまざまな事情で未だ13の県においては支部を設置することが出来ない(このうち、鳥取県・高知県は全技連マイスター会会員が0である)。

また、支部を設置していても、会員数が残念ながら少数のため、十分な活動が出来ないところもみられる。

これらの県に対しては、今後とも引き続き、(一社)全国技能士会連合会が行う「全技連マイスター事業」を通じて全技連マイスター及び全技連マイスター会の会員数増大に努めるとともに、事情が許せば、「定款」の定めを活用し、県を跨った支部の合併や合同事業を検討するなど、活動活性化の工夫を講じて行くこととする。

(6) 全技連マイスター会功労章のための必要経費の積み立て

平成28年度に発足した「全技連マイスター会功労章」制度は、制度上は2カ年毎に1回の資格者が誕生する。したがって、次回の授与は2020年5月に行う見込みであり、その製作に要する経費は、今年度末に支出を予定している。

その原資は、昨年度からの積立金と今年度予算で賄うが、隔年ごとに必要となる多額の支出に対応するため、この積立金制度を今後も維持する。